

小学校の博物館活用における支援方法の検討

Examination of support method of museum education in elementary school

大浦 陽太*1 今井 亜湖*1

Yota OURA Ako IMAI

*1 岐阜大学教育学部

*1 GIFU University, Faculty of Education

Email: v1027402@edu.gifu-u.ac.jp

あらまし：本研究は、小学校で行われている1度きりの博物館活用である「単発的な学習活動」において、資料から情報を収集する学習活動の支援方法を検討することを目的とし、児童に展示資料を見る視点を示す問いと、児童が自由に思考できる問いからなるワークシートを開発した。ワークシートの学習者の記述を分析した結果、本研究で開発したワークシートが、資料から情報を収集する学習活動の支援方法として有用であることが示された。

キーワード：博物館活用, ワークシート, 展示解釈, 展示理解, 単発的な学習活動

1. 研究背景・研究目的

2017年公示の小学校学習指導要領「第1章総則」第3の1では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向う授業改善」として「地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。」(文部科学省2017)という記述が追加され、小学校教育の博物館活用の充実が重要視されるようになった。

奥本・加藤(2010)は、先行研究から、知識や経験が不足している博物館初心者は、展示資料を解釈することは難しいとし、博物館初心者に対する展示解釈の支援を試み、その効果を明らかにした⁽²⁾。すなわち、現在小学校教育において最も多く行われている1度きりの博物館活用である「単発的な学習活動」⁽³⁾では、小学生が展示資料から情報を収集する学習活動を行うことは難しく、支援が必要であると考えた。

先行研究では、小学生を対象とした博物館の展示理解・解釈に関する支援としてワークシートを使用した報告はあったが⁽⁴⁾、その有用性を明らかにした研究は確認できなかった。

そこで、本研究では「単発的な学習活動」において、展示資料から情報を収集する学習活動をワークシートで支援する方法を検討し、その有用性を明らかにすることを目的とする。

本研究では、岐阜県本巣市が行っているふるさと学習(以下、ふるさと学習)を研究対象とする。ふるさと学習は、市内の小学6年生を対象とした船来山古墳群を題材に郷土について学ぶ「単発的な学習活動」であり、出土品が展示されている古墳と柿の館で、児童が展示資料を見学する活動が行われる。

2018年度に行われた実践を分析したところ、その活動は展示資料から情報を収集する学習活動を意図して行っていたが、児童は展示資料を見学する活動に終始していた。そこで、本研究では、ふるさと学習において、展示資料から情報を収集する学習活動を支援するワークシートを開発することにした。

2. ワークシートの開発

船来山古墳群の特徴の1つとして、豪華な出土品が挙げられる。古墳と柿の館に展示されている馬具、武器、装飾品は、渡来人によって伝えられた時期に建造された古墳から出土しており、これらの出土品から埋葬されていた豪族の権力の強さがうかがえる。しかし、出土品やキャプションといった展示資料から、その出土品が出土した古墳、その古墳が建造された時代などの複数の情報を収集し、関連付けなければ、埋葬された人の権力の強さを理解することは難しい。そこで、本研究では、児童が展示資料から情報を得るためには、児童に何をどのように見るのかという展示資料を見る視点を与える必要があると考えた。また、児童がこれらの情報をもとに、情報を関連させ、埋葬された豪族について推測する活動は「深い学び」につながるとも考えた。

そこで、児童に展示資料を見る視点を示す問い(問1)と、児童が自由に思考することができる問い(問2)から成るワークシートを開発した。

以下の図1に開発したワークシートの表面、図2にワークシートの裏面を示す。

ワークシートの表面は、問1の小問①～④について書き込めるようにした。すなわち、まず、児童は展示コーナーの馬具、武器、装飾品の中から1つの展示コーナーを選び、小問①ではその展示コーナーに展示されている、学習者が興味を持った出土品を1つ選ぶ、小問②ではその出土品が出土した古墳の古墳番号を記入し、小問③ではその古墳が作られた時期をスケルトン教材等から特定して回答し、小問④ではその古墳が建造された時代背景を整理させた。

ワークシートの裏面には、問2「どんな人が葬られていたか推理してください」に対し、小問①「どんな身分の人ですか?」、小問②「どんなことをしていた人ですか?」を設定し、それぞれ推理した結果とその理由を記入させた。

古墳と柿の館見学シート		
年 組 名 前:		
① 展示コーナーの中から一つ選んでヒントを採めよう!		
②馬具について ①馬具の中から1つ選んで名前を書いてください。	③武器について ①武器の中から1つ選んで名前を書いてください。	④装飾品について ①装飾品の中から1つ選んで名前を書いてください。
②どの古墳から見つかりましたか?	③どの古墳から見つかりましたか?	④どの古墳から見つかりましたか?
号墳	号墳	号墳
③その古墳はいつ頃作られましたか?	③その古墳はいつ頃作られましたか?	③その古墳はいつ頃作られましたか?
3~5世紀・5世紀末~6世紀・7世紀末	3~5世紀・5世紀末~6世紀・7世紀末	3~5世紀・5世紀末~6世紀・7世紀末
④馬具はどこでつくられていましたか?年表から調べてください。	④鉄製品はいつ頃から日本で作られ始めましたか?年表から調べてください。	④装飾品はどこで作られていましたか?年表から調べてください。
から	から	から

図1 開発したワークシートの表面

古墳と柿の館見学シート	
年 組 名 前:	
②調べたことを使って、どんな人が葬られていたか推理してください。	
①どんな身分の人ですか?	参考 古墳時代の出来事(授業)
理由	葬 記 ・大塚から掘った青銅器と鉄器が使われるようになる。
②どんなことをしていた人ですか?	葬 記 ・古墳が作られる。
理由	葬 記 ・大塚墓誌が土壌一を定める。 ・朝鮮半島から渡来人が来て、土葬づくり、葬法(かむ)、埋葬などの技術、馬具、銅鏡などを伝来。 ・漢字が伝わる。
③その他に気付いたことを書いてください。	葬 記 ・仏教が伝わる。

図2 開発したワークシートの裏面

3. ワークシートの評価

ワークシートの評価は2回行った。1回目の評価は、2019年4月19日~26日にふるさと学習を行った4校6学級143名分のワークシート(以下、α版)を対象に行った。問1では展示資料から情報を収集できたかを、各小問の正答率を算出した結果より分析した。問2では各小問の「理由」の記述を分類し、それぞれの回答割合からどの情報を関連させて考えを形成したかを明らかにした。その結果、α版の問1の正答率は、小問①100.0%、小問②99.3%、小問③90.2%、小問④69.2%であった。小問④が他の小問と比べ低いのは、小問④が単に展示資料から情報を収集するだけでなく、学習者が得た出土品に関する情報とその時代背景を関連させて考えなければ正答できない設問であったためだと考えられる。以上のα版の評価結果より、展示資料から情報を収集するのみの小問①~③では、多くの児童が正答していることから、展示資料から情報を収集する学習活動を支援できたと考えることができる。しかし、問1は作成者の意図とは異なり、1つの展示コーナーについて回答すべきところを、複数の展示コーナーについて回答する児童が多かったため、この点は課題となった。次に、問2の回答結果を見ると、情報を関連づけた記述は「①どんな身分の人ですか?」26.3%、「②どんなことをしていた人ですか」23.6%であった。各小問とも全体の半数ほどの児童が無記入であった。これは問1において複数の展示コーナーについて回答したために問2の回答時間が不足した、ワークシートの裏面にある問2に気付かなかったことが、その要因と考えられる。

これらの結果より、ワークシートの改善を行った。これに伴い、α版の小問①、②、③、④は、改善し

たワークシート(以下、β版)では小問②、③、④、⑤に修正された。

2回目の評価は、β版を対象として1回目の評価と同様の目的・方法で行った。評価対象は、2019年5月8日~29日にふるさと学習を行った3校4学級148名分のワークシートである。評価の結果、問1の正答率は、小問②95.8%、小問③84.7%、小問④66.7%、小問⑤48.1%であった。α版の評価の際に単に展示資料から情報を収集するだけでなく、得た情報と時代背景を関連させ考えなければ正答できない設問とした小問⑤(α版では小問④)を除く、小問②~④において半数以上の児童が正答しているため、β版も展示資料から情報を収集する学習活動を支援できたことが明らかになった。なお、α版の問1の回答で見られた複数の展示コーナーについて回答する児童は確認できなかった。問2では、情報を関連づけた記述は40.3%確認でき、β版はα版より学習者が情報を関連づけ、考えを形成する活動を支援できたことが明らかになった。その一方、無記入の児童は全体の45.5%であった。ふるさと学習は30分間で船来山古墳群の専門家による解説、展示見学、交流活動を行わなければならないため、ワークシートに取り組む時間に制限があり、問2に取り組む時間が少なかった可能性が考えられる。この点については今後検討しなければならないと考える。

本研究は、小学校の1度きりの博物館活用である単発的な学習活動において、資料から情報の収集を行う学習活動の支援方法を検討するために、本県市ふるさと学習を研究対象として行った。過去の実践を分析した結果、ワークシートによる支援が適当であると考え、児童に展示資料を見る視点を示す問いと、児童が自由に思考できる問いからなるワークシートを開発した。評価の結果、本研究で開発したワークシートは、資料から情報の収集を行う学習活動の支援方法として有用であることが示された。一方、一部の児童は、ワークシートを用いて自分なりに考えを形成することはできたが、それ以外の児童は無記入であったことから、展示資料から得た情報から考える活動に対する支援については課題が残った。

参考文献

- (1) 文部科学省 (2017) “小学校学習指導要領(平成29年告示)”
https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf(2020年1月2日参照)
- (2) 奥本素子・加藤浩 (2010) “博物館展示を理解・解釈するために必要な学習支援についての考察” 日本教育工学会論文誌 33巻4号 p.423-430
- (3) 小川義和 (2002) “科学系博物館における学校と連携した学習活動の類型化” 日本科学教育学会第26回年会論文集 p.195-196
- (4) 石田惣・釋知恵子 (2016) “博物館における学校教育支援のあり方—大阪市立自然史博物館における教材作成・活用の事例から—” 日本生態学会誌 66 p.649-658